



学校

子どもたちの学びのために活動しませんか
力を貸していただけの方を募集します♪

市では、「できる人が、できるときに、できることを」を合言葉に、地域の皆様に地域の小中学校を支援していただく「学校支援ボランティア事業」及び「教育支援ボランティア事業」を推進しています。ボランティア活動には、特別な資格は必要なく、市のボランティア保険に加入して都合の良い日時に行っていただけます。

「学校支援ボランティア事業」

お住まいの校区の小中学校に登録していただき、学校支援コーディネーターの方を中心に、各学校のニーズに応じた活動をしていただいています(令和5年5月現在 1,304名登録)。

《こんな活動をしています!》

環境整備支援	草取りや落ち葉拾い、樹木の剪定、机や椅子の高さ調整、農園整備等
安全支援	遠足、校外学習、登下校の見守り等
学習支援	ミシンや裁縫、調理、習字、読み聞かせ、農作物の栽培活動等



校内清掃



プール清掃



机・椅子の高さ調整

「教育支援ボランティア事業」

「学校支援ボランティア」の活動範囲を、複数の小中学校・保育園等まで広げて活躍していただくのが「教育支援ボランティア」です。「大垣市教育支援人材バンク」に登録していただき、地域のみなさんがこれまで培われたさまざまな特技や趣味を生かし、学校活動を支援していただいています(令和5年5月現在 105名登録)。

現在、少子化、核家族化等の社会構造の変化により、子どもたちが学校や家族以外の大人や地域とつながる機会が減少しています。これらの事業は、地域の方にボランティア活動に参加していただくことで、地域全体で子どもたちの学びを支援し、子どもたちの生きる力や豊かな心を育むことを目的にしています。

地域の宝である子どもたちのために、参加していただける方は、社会教育スポーツ課
(TEL 47-8039)へご連絡をお願いします。



救命救急講習の補助

みんなが学び交わり成長する 文教のまち大垣

大垣市教育委員会だより

はぐくみ

vol.24

発刊
令和5年
11月

総合教育会議 市長と小中学校における不登校対応について意見交換を行いました

市長と教育委員会は、教育についての施策などを協議する総合教育会議を9月27日に開催し、小中学校における不登校対応について、意見交換を行いました。

教育委員からは、「自分のやりたいことや自信になること等をのばす教育により、皆から認められる存在になれる指導が必要」、「他者との関わりをもてていないと考えられる不登校児童生徒に対しては、どのような原因があるかを個別的・多面的に確認する必要がある、その原因に合わせたアプローチが必要であると思われる」、「不登校の子どもたちの学びの場や居場所として、いろいろな選択肢を提示できる制度づくりに期待している」、「家庭が非常に疲弊していて、地域も担い手不足となっている。教育委員会と子育て支援課、保健センター等との連携で子育て家庭を支える、『共創による子ども支援』という視点で進められていることに、とても期待している」などの意見が出され、市長と意見交換を行いました。

この会議で出された意見を取り入れながら、小中学校の教育活動の充実を図ってまいります。



新たな連携協定を結びました

市と市教育委員会は9月1日、不登校特例校に認定されている学校法人 西濃学園(揖斐川町)と、「不登校及び不登校傾向の児童生徒の自立支援の充実にに向けた連携協力に関する協定」を締結しました。

子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、不登校の児童生徒が全国的に増えてきており、本市でも早急に取り組まなければならない課題となっています。

西濃学園が積み上げてきた指導のノウハウの提供を受けることで、小中学校における不登校児童生徒への支援の一層の充実を図ってまいります。



協定式の様子



学校

不登校生徒及び保護者対象「高校説明会」を開催しました

大垣市教育総合研究所は、9月22日に、不登校または不登校傾向にある生徒と、その保護者を対象とした高校説明会を開催しました。

各中学校で行われている高校説明会とは別に、不登校生徒の社会的自立に向けた取組の一環として、今年度、初めての試みとして実施しました。

当日は、生徒及び保護者、合わせて80名を超す参加があり、会場がいっぱいになりました。

生徒や保護者は、高校から説明される学校の特色や進路先等について、メモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

当日説明していただいた学校は、次の8校です。
(当日発表順)

大垣工業高等学校、大垣商業高等学校、大垣日大高等学校、清凌高等学校、ぎふ国際高等学校、西濃桃李高等学校、啓晴高等学校、華陽フロンティア高等学校



学校

わくわく算数アドベンチャーを行っています

市では、小学校5・6年生の児童を対象として、授業で学んだ知識や技能を活用して問題に取り組む、「わくわく算数アドベンチャー」を年3回実施しており、算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さを知り、算数への興味や学ぶ意欲がさらに高まる機会を提供しています。

この事業は、岐阜大学教育学部の算数・数学教育講座の教授や大学院生・大学生の協力のもと、実施しています。



7月8日(土)に第1回目を実施し、43名の児童が参加しました。3桁の数を繰り返して並べた6桁の数をもつ性質について調べる問題や、割引券を使って商品を安く買う方法を考える問題に対して、児童たちは粘り強く考えたり、大学生からアドバイスをもらったりして、楽しく問題解決に取り組みました。

残り2回は、次の日程で実施しますので、参加を希望される場合は、学校を通じてお申し込みください。

《今後の実施予定》

日 時	会 場
第2回：令和5年12月16日(土) 14:00～16:00	情報工房
第3回：令和6年 1月20日(土) 14:00～16:00	情報工房



学校

「大垣市少年の船」が鹿児島市を訪問しました

「大垣市少年の船」実行委員会では、海のない地域に住む大垣市の児童が、洋上を中心とした集団生活や、野外での活動等を通じて、フレンドリーシティである鹿児島市の同世代の児童と交流を深める事業を行っております。

コロナ禍で4年ぶりの開催となり、今年度は、7月23日から26日まで、3泊4日の日程で、市内16の小学校の6年生30名が、研修に参加しました。



参加児童は7月15日・16日に事前研修を行い、鹿児島市の児童との交流に向けて、資料作りや発表、レクリエーションの練習をしました。

交流資料作りでは、『歴史・産業・生活・文化・地理・治水』のテーマについて各班、趣向を凝らして準備を進めました。

研修1日目は、海津市歴史民俗資料館や治水神社などを巡り、薩摩義士に関して見識を深め、午後からは、フェリー「さんふらわあ」に乗船し、洋上での集団生活を体験しました。



2日目は、鹿児島市少年自然の家に宿泊し、鹿児島市の児童と交流活動を行いました。お互いの市の魅力を、クイズ形式や劇形式など工夫して紹介し合いながら学び、また、自らの住む市の良いところを再確認することができました。

3日目は、歴史学習として、知覧特攻平和会館や薩摩義士碑を見学し、大垣市と鹿児島市のつながりについて学びました。

最初は、市内の同学年の子と初めて出会い、緊張する様子も見られましたが、グループワークを通じてお互いに協力し、考え合う姿が見られるようになりました。本研修は児童30名にとって、今後の学校生活を過ごしていくうえでも貴重な体験となりました。

